

診療科(講座)紹介

- 1) 神経症候学、神経解剖学、神経生理学及び臨床神経学を基盤とした演繹的思考、またそれに基づいた医学的手技を身に着け、神経疾患救急から慢性疾患に至るまで対応できる優秀な神経内科専門医を養成することを目標としている。
- 2) とくに急性期疾患の病態把握と対処を重要視している。
- 3) 磁気刺激治療を始めとする臨床神経生理学の分野で、世界トップクラスの研究をしている。
- 4) 当教室における神経内科専門医試験の合格率は全国トップクラスであり、受験資格を有する者全員が合格している。
- 5) 臨床神経学関連の国際誌に、年間10編程度の論文を発表している。
- 6) 東大病院、ロンドン大学、トロント大学、国立循環器センター、情報通信研究機構、国立保健医療科学院など多くの施設との共同研究を行っていて、外国留学も可能である。

指導医(スタッフ)紹介



部長(教授)
宇川 義一

昭和53年 東京大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学
- 2) 脳機能イメージング
- 3) 大脳磁気刺激
- 4) 運動の病態解析

学会活動

- 1) 日本神経学会(評議員)
- 2) 日本臨床神経生理学会(監事)
- 3) Movement disorders society the membership committee
- 4) International Federation of Clinical Neurophysiology (IFCN)
- 5) Clinical Neurophysiology (associated editor)
- 6) Movement disorders society(editorial board member)
- 7) Cerebellum (editorial board member)
- 8) 臨床神経生理学(編集委員)
- 9) Clinical Neuroscience(編集委員)



准教授 杉浦 嘉泰

平成4年 弘前大学医学部卒業

平成8年 福島県立医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) イオンチャンネル病



助教 榎本 雪

平成6年 奈良県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



講師 榎本 博之

平成5年 旭川医科大学卒業

平成15年 旭川医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



助教 星 明彦

平成8年 福島県立医科大学卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 脳虚血耐性
- 2) 神経細胞死のメカニズム



助教 熊谷 智広

平成6年 福島県立医科大学医学部卒業

平成11年 福島県立医科大学大学院修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 虚血性脳血管障害



助教 中村耕一郎

平成11年 福島県立医科大学医学部卒業

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学



助教 望月 仁志

平成6年 防衛医科大学校医学科卒業

平成11年 防衛医科大学校医学教育部医学系

研究科修了

臨床専門分野

- 1) 臨床神経学

研究分野

- 1) 臨床神経生理学、筋ジストロフィー症

後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒業3年)	神経診断学や検査手技等、神経内科医としての基礎となる医療技術は勿論のこと、全身状態のアセスメントや栄養管理法など、内科医として必要な知識や全身管理技術の習得にも重点を置いています。
2年次	市中病院での研修等を受け、外来診療のノウハウなど、臨床医として必要な知識と技術を更に高めます。この時期に内科認定医試験を受験しますが、当科で研修した医師は全員が内科認定医試験に合格しています。
3年次	高次救命救急センターでの研修も含めて、プライマリケアや最先端医療、高度医療技術を身につけます。これらを経て初期研修医や中期研修医の指導役となります。本人の希望に合わせて、研究のテーマを決定する。
4年次	病棟を統括するチーフレジデントを経験します。チーフレジデントは直接患者を受け持たず、全入院患者を把握して方針の決定に携わり、入院の管理を行うほか、診療報酬に関するノウハウの習得や学生指導役も行います。

大学院・留学について

希望者には大学院への進学を優遇しています。その際も、臨床医としてのレベルを維持するためカンファランスや抄読会への参加ができるような工夫をおこなっています。また、収入の確保にも十分な配慮を施しています。

多くの施設との共同研究を行っており、研究テーマについては本人の希望に応じて決定しています。

現在、当科では1名の米国留学者、1名の国内留学者がいます。他大学からの研究生も3名来ています。ドイツとカナダから留学生が来る予定です。

留学に対しても、それぞれの希望や将来像に合わせて柔軟に対応いたします。

専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

取得できる専門医は以下の通りです。

1. 内科認定医
2. 神経内科専門医
3. 内科専門医
4. 臨床神経生理学会専門医
5. 日本頭痛学会頭痛専門医(現在整備中)
6. 日本脳卒中学会専門医

このうち、内科認定医と神経内科専門医は受験資格に該当する学年(内科認定医:4年目、神経内科専門医:7年目)は全員が取得しています。その他の専門医はそれぞれの専門に合わせて適宜取得が可能です。

神経内科専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標は以下の通りです。

1. 内科認定医であること。
2. 神経学的診察が正確に行え、正常・異常の判断が出来ること。
3. 神経解剖・生理の知識や概念が頭に入っていること。
4. 神経学的診察に基づき局所診断が出来ること。
5. 病歴・診察所見に基づき病因の推定が出来ること。
6. 鑑別診断・確定診断のための検査プランがたてられること。
7. 推定した病因に基づき治療プランがたてられること。
8. 脳死の判定が出来ること。

後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	総合南東北病院	郡山市	山本 悌司	神経科学部門部長
2	太田西ノ内病院	郡山市	松浦 豊	神経内科部長
3	大原総合病院	福島市	斎藤 直史	神経内科主任部長
4	枳記念病院	二本松市	本間 真理	神経内科部長
5	松村総合病院	いわき市	熊巳 真澄	神経内科診療部長

指導医からのメッセージ

当院は1次から3次までの救急患者を受け入れ、また、近隣住民の直接受診も多いため、様々な神経疾患が偏りなく入院します。したがって、大学病院にありがちな疾患の偏りはなく、超急性期脳梗塞をはじめとする多様な症例を数多く経験することが可能です。研修システムはチーフレジデントの導入など、米国にならった方式をとっていることも当教室の特徴です。

臨床研修が義務化されるに伴い、これらのような米国にならった研修方式をとる病院が増えつつあるようですが、当科では創設時から上記の研修システムが確立されています。また、スタッフは毎日直接病棟を訪れて、随時病棟医の相談指導にあたります。

これらの研修を通じて、神経学的診察・診断、CT・MRI・SPECT・超音波・脳血管撮影・脊髄造影等の画像診断、神経学的特殊検査(神経伝導検査、誘発電位、脳波、筋電図、筋生検、神経生検、頸部血管エコー、経食道心エコー、経頭蓋カラードプラなど)や各種治療法を習得します。

医局には各自専用の机、本棚、ロッカーが用意されます。大学病院の当直(病棟当直、救急外来からのコール、他科からの時間外コンサルテーション)は、研修2、3ヵ月目から開始され、月に平日2、3回、休日1回程度です。当直の際は、必ずチーフレジデントクラスの医師がサポート致しますので、神経内科医としての経験が浅い医師でも安全で確実な診療をおこなうことができます。

休日は土曜・日曜・祝日です。夏季休暇は7月から9月までの間に9日間を自由に配分することが可能で、病棟医は全員が必ず休暇を消化しています。14日間連続で取ることも、小分けにすることもでき、ライフスタイルに合わせた休暇を過ごすことが可能です。また、女性医師の出産・育児等に関しては柔軟に対応しています。